

令和元年度決算

普通会計決算認定特別委員会説明資料

徳島県警察本部

目 次

I	令和元年度警察本部主要施策の成果の概要	1
II	主要事業の内容及び成果	3
III	歳入歳出決算額	4
1	一般会計決算額	4
(1)	歳入決算額	4
(2)	歳出決算額	4

I 令和元年度警察本部主要施策の成果の概要

第1 身近な犯罪の徹底抑止

令和元年中の刑法犯認知件数は、一昨年と比較して、ほぼ横ばいの状況であった。

その一方で、児童虐待やストーカー、DV事案の認知件数は、依然として高い水準で推移しており、これら事案に対しては、関係機関・団体と連携の上、被害者の安全確保を最優先とした対応に努めた。

振り込め詐欺等の特殊詐欺事犯は、金融機関と連携した水際対策等、被害の防止と検挙の両面で対策を推進した。

第2 重要犯罪等の徹底検挙

殺人、強盗等の重要犯罪は、初動段階から捜査員を集中投入するなどして、早期解決に努めた。

暴力団対策では、傷害、恐喝事件等で主要幹部を検挙したほか、関係団体や事業者等と連携の上、暴力団排除活動を推進した。

第3 交通死亡事故の徹底抑止

交通事故の発生は、引き続き減少基調にあるが、令和元年中の死者数は41人と、一昨年と比較して10人増加した。

交通事故の抑止に向け、関係機関・団体等と連携し、参加・体験型の交通安全教育を実施したほか、危険性・悪質性の高い違反行為に対する指導取締り、交通安全施設の整備等、総合的な対策を推進した。

第4 大規模災害、テロ等への徹底対処

令和元年中、全国各地で台風や集中豪雨等により、相次いで災害が発生した。

県警察では、あらゆる災害に迅速、的確に対処できるよう、自治体や関係機関と連携した災害警備訓練等を実施し、対処能力の向上に努めた。

また、厳しい国際テロ情勢等を踏まえ、テロの未然防止に向けた諸対策を推進した。

第5 組織基盤の徹底強化

変化する治安情勢等を踏まえ、警察署の統合等、組織体制の見直しに努めた。

また、業務の合理化・効率化やワークライフバランスに配意した組織運営にも取り組んだ。

II 主要事業の内容及び成果

(単位：千円)

事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
運転免許更新センター整備事業	県内における運転免許人口等を踏まえ、県南部及び県西部に、運転免許の即日交付を可能とする、運転免許更新センターを設置するため、システム改修等の環境整備を行った。 (25, 580)
交通管制システム高度化更新事業	安全で快適な交通環境を確保するため、交通管制システムの高度化更新を行い、交通渋滞の緩和及び信号機監視機能の強化を図った。 (121, 692)
通信指令システム機能強化事業	110番通報による事件・事故等に対し、迅速かつ的確な初動捜査活動を行うため、通信指令システムの機能強化を図った。 (49, 500)
新防災センター（徳島中央警察署）施設整備事業	大規模災害時においても治安・防災の拠点としての機能を発揮するため、老朽、狭隘化した徳島中央警察署庁舎について、民間資金を活用したPF1方式により整備を進めた。 (1, 182, 196)
警察施設防災機能強化事業	南海トラフ巨大地震等の大規模災害に備えるため、防災拠点となる警察施設の防災機能を強化した。 (114, 354)
交番・駐在所等整備事業	地域の警察活動拠点である交番・駐在所施設の老朽化の解消と、地域の防犯拠点としての機能を強化するため、民間資金を活用したPF1方式による駐在所の一括整備、駐在所リフォーム及び交番の建替等を実施した。 (628, 696)
警察施設長寿命化推進事業	「徳島県公共施設等総合管理計画」に基づく警察施設の長寿命化を推進するため、これまでの詳細現況調査結果を踏まえ、「徳島県警察施設長寿命化計画」を策定した。 (15, 994)
交通安全施設整備事業	安全で快適な交通環境を確保するため、交通安全施設の計画的更新及び道路の新設・改良等に伴う交通信号機、道路標識等の整備を行った。 (588, 376)

III 歳入歳出決算額

1 一般会計決算額

(1) 歳入決算額

(単位:円)

区分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	予算現額と 収入済額 との比較
警察本部	2,453,424,000	2,333,039,398	2,332,919,398	30,000	90,000	△120,504,602

(2) 歳出決算額

(単位:円)

区分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不 用 額	予算現額と 支出済額 との比較
警察本部	23,558,036,106	23,138,519,025	8,200,000	411,317,081	419,517,081



